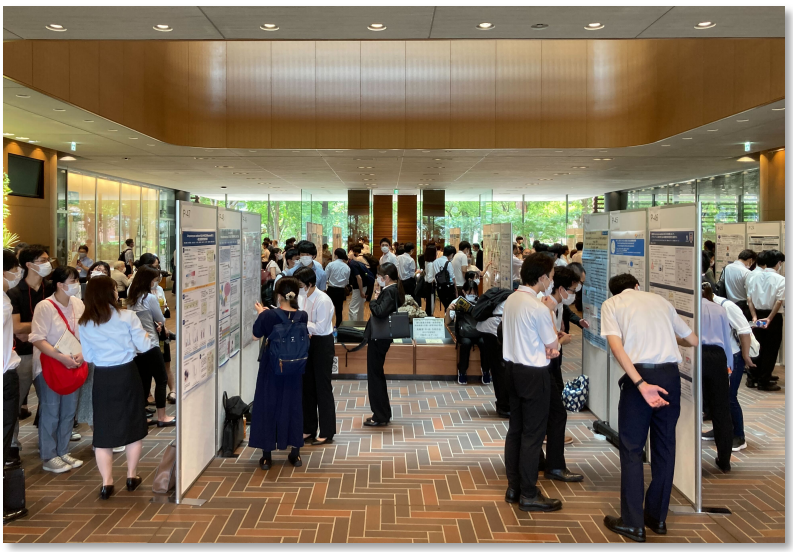
公益社団法人日本農芸化学会
2022年度 関東支部大会

報告者　松島 芳隆（東京農業大学・農芸化学科）／令和4年9月2日

令和4年8月27日（土）、東京農業大学世田谷キャンパス・アカデミアセンターにて2022年度支部大会が開催されました。長らくオンライン開催が続いていましたが、久しぶりの対面開催となったこともあり、200名を超えるみなさま（一般82名、学生135名）にご参加を頂きました。

9時40分より松島（支部長）の開会の辞の後、9時50分から11時30分までポスター発表がアカデミアセンター一階エントランススペースで行われました。ポスターの発表件数は86件（うち優秀発表賞のエントリー50件）で、奇数・偶数の演題に分かれ、各50分のディスカッションタイムの間、熱気に溢れた活発な議論が交わされました。



昼食の後、12時30分から前半の口頭発表8件（うち優秀発表賞のエントリー7件）がアカデミアセンター地下1階の横井講堂にて行われました。10分ほどの休憩を挟んで14時20分から後半8件の口頭発表（うち優秀発表賞のエントリー7件）がありました。各発表は9分間、質疑応答は2分間と短い時間ですが、農芸化学を象徴するように幅広く大変興味深い内容のご発表で、活発な討論の場となりました。

16時20分からは、3月の農芸化学会2022年度大会でご受賞された4名の先生にご講演を頂きました。最初の若手女性研究者賞をご受賞された能見祐理先生（新潟薬大）からは、「メイラード反応機構解明に向けた反応生成物の一斉分析法の開発と構造決定およびその機能解析」について、女性企業研究者賞をご受賞された中﨑瑛里先生先生（キリンホールディングス）には、「機能性食品としてのシチコリンの用途開発研究」についてご講演頂きました。

続いて、女性研究者賞をご受賞された横井彩子先生（農研機構）からは、「植物における精密ゲノム編集技術ジーンターゲッティングの高度化と汎用化に関する研究」について、最後に、技術賞をご受賞された森田悠治先生（キリンホールディングス）には、「インフラマソーム制御を介した新しい眼の健康維持アプローチ:KW乳酸菌の開発と事業化」についてご講演頂きました。多くのお仕事を短い時間でご紹介頂き大変恐縮でしたが、わかりやすいご発表で大変勉強になりました。なお、若手女性研究者賞をご受賞された周英鈺先生は現在ハルビン工業大学に異動されており、対面ではご講演頂けませんでしたが、ご受賞内容については、学会HPにあります講演動画をご覧ください。

閉会の際には、ダイバーシティ推進委員会の野尻委員長から、冊子「農芸化学分野のロールモデルたち」に関するご説明など活動のご紹介をしていただきました。

大会終了後は、場所をアカデミアセンター屋上に場を移し、懇親会が行われました。せっかく多くのみなさまが集まる支部大会ですので、交流の場を持つべく、感染対策をしながら屋外で開催いたしました。一般41名、学生51名、合わせて92名のみなさまがご参加され、和やかな雰囲気の中、情報交換が行われました。コロナの影響で懇親会が開かれないままになっておりましたが、改めて対面学会や懇親会の重要性を感じる時間となりました。上の写真は昼間に撮影した屋上のようすです。

懇親会の席では、学生会員が発表者である講演を選考対象として優秀発表賞の発表が行われ、高い評価を得た口頭発表部門の3名、ポスター発表部門の12名にそれぞれ賞状と副賞が授与されました。

残暑厳しい日であるにもかかわらず朝から、大勢のみなさんにご参加頂き、久しぶりに直に討論したり、懇親を深めることができ、盛況のうちに終了することができました。

末筆ではございますが、ご参加頂いたみなさま、ご講演してくださいましたみなさま、支部大会開催・運営にご協力頂きましたみなさまに感謝申しあげます。